



9月15日 移住者の視点で地域活動を支援

国東市地域づくり応援隊に、(左から)武井啓江さん(国見町岐部)、今田史さん(国東町富来浦)、越名秀樹さん(武蔵町手野)の3名が委嘱され、三河市長に就任報告を行いました。3名はそれぞれ居住する町を担当し、移住者としての視点を生かしながら、高齢者の社会参加や地域貢献への支援活動を行います。



9月15日 地域の目で防犯パトロール

市は、大分県警が推進する「ながら見守り活動」に取り組むため、高齢者支援課の公用車16台に防犯マグネットを貼りました。国東署の生活安全刑事課長・松尾淳さん(左端)は「ながら見守り活動は、日常生活に防犯の視点を取り入れることで、子どもたちを不審者から守る活動です。市の参加は心強いです」と述べていました。



8月10日 世界最高峰の学生らと交流

アストくにさきで、市内の中高校生16名が参加して、米国のハーバード大生らとの交流会が行われました。ハーバード大生は映像で参加し、同大出身の廣津留すみれさん(大分市出身)と別府市のAPU学生が会場で講師を務めました。中高生は英作文の指導等を受けながら、英語への関心を深めていました。



8月8日 科学実験の面白さに親しむ

アストくにさきで、「くにさき少年少女発明クラブ」の開講式と発明講座が行われました。市内の小学4～6年生約20名が、フェイスシールド作りや空気砲の実験に挑戦。小原小学校6年生の宇都宮聖那さんは「フェイスシールドがうまくできました」とうれしそうに話してくれました。



9月17日 文集「ふれあい」の発行が活動賞を受賞

国東市老人クラブ連合会の宮本季生会長が市役所を訪れ、「全国老人クラブ連合会・活動賞」の受賞を三河市長に報告しました。会員による短歌や俳句等をまとめた文集「ふれあい」を発行する同会の活動が、優良事例と認められたものです。宮本会長は「14年間続けてきた活動が評価され、うれしく思います」と喜びを語っていました。



9月15日 国東高校で七島藪の収穫

国東高校園芸ビジネス科のバイオ類型を選択する3年生3名が、同校の水田に植え付けた七島藪の収穫を行いました。刈り取りと切りそろえの作業を担当した溝邊大翔さん(中央)は「七島藪と同じ長さに切りそろえるのが大変でした。これから工芸品を作るのが楽しみです」と笑顔で話してくれました。



8月31日 「被災地の役に立ちたい」国東小児童会が募金活動

国東小学校児童会役員の6年生6名が市役所を訪れ、三河市長に災害支援募金を手渡しました。この募金は、7月豪雨による県内各地の被害を知った松本凌河さん(左端)の呼びかけにより、同児童会が自発的に校門で募金活動を行ったものです。児童会長の栗田紗奈さん(中央)は「急に始めた募金活動でしたが、4日間で19,837円も集まりました。全校児童、先生の協力に感謝しています。被災地の力になれたらうれしいです」と話していました。この募金は大分県共同募金会を通じて、被災地支援に役立てられます。

